



# 介護の現場から



介護職に就いて14年が経つ。この頃、よく介護職になりたての頃の  
ことを思い出す。初めは挨拶するのも緊張し、コミュニケーション  
もとれず、仕事についていくこともできず失敗続きで泣いてばかり  
していた。こんな調子だから、一年も経つと周りの人は呆れ、さ  
じを投げた。リーダーから「介護の仕事より、まず雑用の洗濯から  
はじめよう」と言われ、かなり落ち込んだ。しかし、辞めても何も  
残らない。とりあえず半年やってみようと考えた。洗濯係をしてい  
るうちに入居者から声をかけられ、会話できるようになった。一人  
また一人とおぼえていき、スタッフにも「〇〇さんは2階で手すり  
をもって立てますよ」とアドバイスができるようになった。一年が経  
た頃、リーダーが「私が指導しましょう」と言ってくれた。その後、  
一つずつ出来る事が増えていった。ある日、転倒した人を見つけ  
(事故) 報告書を書きながら、ため息交じりに「又、事故報を書いて  
います…」と言うと、「それだけ入居者さんのことを見ていると  
いうことだよ」と言ってもらった。こうして、注意され、褒められ  
て今現在がある。失敗ばかりしてへこむ人、大丈夫だよ、私でも出  
来たのだから、周りの人たちに助けてもらいながらやっていきましょ  
う。  
(有料老人ホーム共生の里：S介護福祉士)

